

アイ・シーたんなんだより 公立丹南病院



新病院と旧病院



公立丹南病院 副院長 布施田 哲也

新病院へ移転して約3カ月がたちました。昭和42年から使用していた旧病院は、解体され跡地は広くてきれいな外来駐車場へと変貌し整備されました。

新病院の建設や旧病院の解体では、利用されている方々にはもちろんのこと、

ご近所三六町の方々にも長期間にわたり、多大のご不便とご迷惑をおかけしました。

新病院は、延べ床面積が旧病院の1.5倍あります。分娩室、小児病棟、人工透析、手術室、外来診察室、個室病棟を拡充し、ICU 4床、化学療法専用室、産科専用病床を新設しています。またMRI、CT等の高度医療機器を県内最高水準のものにし、放射線科専門医も新たに着任し地域が求める医療を担う規模と機能を備えたと考えております。

この三六町の地で、明治31年より病院をはじめて百二十年近くがたちました。現在は丹南地域唯一の公的中核病院であり、災害発生時には災害医療を担う「災害拠点病院」にも指定されており、三世紀にわたりこの地で病院が存続し続けたということは、一定の役割を果たしてきた証拠だともおもっています。

新病院への移転後、私は旧病院の解体

を日々写真に残しつつ眺めていました。というのも、移転直前に旧病院にあった大量廃棄処分文書の中から、昭和43年の旧病院建設地鎮祭の白黒写真アルバムを見つけたからです。当時の写真では病院の周りには2階建て以上の建物はほとんどなく、神明の台地の上に建っていた5階建ての病院は、遠くからも目立つ建物で今の新病院以上に当時は威容を誇っていたとおもわれました。

昨年公開された話題になった映画「コクリコ坂から」の中にこんな気の利いたせりふがあったことをご存知でしょうか？
『古いものを壊すことは過去の記憶を捨てることと同じじゃないのか？ 人が生きて死んでいった記憶をながしろにするということじゃないのか？ 新しいものばかりに飛びついて歴史を顧みない君達に未来などあるか！』

過去から未来に受け継いでいきたい精神の中に、患者中心の医療というものがありません。今まで地域に必要とされ存在してきた病院が、今後も必要であり続けるという保障は実はどこにもありません。現在の病院の理念にもいかかされている患者中心の医療の展開は、まさに医療の本道ともおもえるものです。こういったものは旧病院から新病院にかわっても、またどんな世の中になっても大切にしていきたいものだと考えています。

「感染管理」ってなに!?

感染管理室長 馬場みゆき

「感染」を「管理」するってどういうことでしょうか? 例えば「インフルエンザ流行!」とか「〇〇病院で院内感染が起こった」などのニュースを聞かれたことがあると思います。多少のバイ菌が身体に入ってきてても元気な体であればやっつけてくれます。でも体力が落ちていたり、病気だったりするとバイ菌が勢いを増し、感染症を起こすことがあります。

厄介なことにバイ菌は目に見えません。だからこそ「感染」が起こらないように「管理」することが大切になってきます。

ではどのように「管理」するのでしょうか?

すでに皆様も「手を洗う」「咳が出るときはマスクをする」「掃除をする」など、日常生活の中で「感染管理」をしています。病院などの施設では、医療や介護を行う中で感染が起こらないように環境をきれいにし、多くの治療や看護が清潔に行われるよう物品をそろえたり、適切な方法を伝えたりなど「管理」する体制を整えています。

公立丹南病院では、「感染管理」を行うために委員会やチーム会が活動しています。院内

の環境はきれいに保たれているか、適切な方法で治療・看護が行われているかなどについて院内を見回り、感染対策上の問題がないか点検しています。また、他施設と連携を取り、お互いの施設の「感染管理」の質を向上させる活動も行っています。

ところで「認定看護師」という言葉をお聞きになったことはありますか? これは「ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて、水準の高い看護実践のできる者」と定義し、日本看護協会が認定する資格です。私は感染管理分野で認定を受け、現在は院内・外で活動しています。「感染」が起きてからの対応も大切ですが、「感染」を起こさないための対策も非常に重要です。ですから、職員一人一人が正しい感染対策を実践できるよう、継続した活動体制作りを目指しています。

今後も公立丹南病院をご利用になる地域の皆様が、安心して治療や看護を受けられるように、「感染管理」体制を充実させる努力をしています。



手もきれいに!!
心もきれいに!!
(池田町 龍双ヶ滝)



医療公開セミナー

今年もセミナーの時期が近づいてきました。今年は皆様により身近に感じてもらえるように、医療公開セミナーと名称を変更いたしました。講師には、元、ザ・リッツ・カールトンホテル日本支社長・高野登氏をお迎えします。高野氏は日本支社長として、ザ・リッツ・カールトン大阪の開業準備に参画され、著書には、『リッツ・カールトンが大切にしているサービスを超越の瞬間』があります。

また、全国各地でたくさんの講演もされています。リッツカールトンホテルといえば世界の名門ホテルと称されていますので、宿泊された方も多くいらっしゃるのではないのでしょうか。名門ホテルが名門であり続けるための、ホスピタリティの精神…。どのようにしたら、お客様も満足し、従業員も満足している職場にできるのか学んでみませんか。そのために、ぜひ今回の講演に参加していただきたいと思います。今悩んでいることが解決できるヒントが見つかると思います。

医療関係者の方はもちろん、皆様の参加をお待ちしています。

医療公開セミナー

「ホスピタリティの心 ～人間力の原点」

講師 元ザ・リッツ・カールトン・ホテル・カンパニー日本支社長
人とホスピタリティ研究所 代表 高野 登氏

- 日時：平成24年9月15日（土）
午後2時～4時（開場は午後1時～）
- 会場：鯖江市嚮陽会館 多目的ホール TEL：0778-52-5789
- 入場：無料
- 主催：公立丹南病院 地域医療振興協会
〈お問い合わせ／公立丹南病院 総務課〉 TEL：0778-51-2260
- 後援：福井県・鯖江市・福井県医師会・鯖江市医師会・福井県看護協会



公立丹南病院

〒916-8515 福井県鯖江市三六町1丁目2-31

公立丹南病院

TEL:0778-51-2260 FAX:0778-52-8620
ホームページ：<http://www.jadecom.or.jp/jadecomhp/tannan/html/>
メールアドレス：tannan-info@jadecom.or.jp

公立丹南病院 在宅事業部

居宅介護支援事業所

訪問看護ステーション

〒916-0021 福井県鯖江市三六町1丁目3-16-101
TEL:0778-52-2050 FAX:0778-52-2151
メールアドレス：tannan-zaitaku@jadecom.or.jp

リハビリテーションセンター なごみの里

〒916-0021 福井県鯖江市三六町1丁目2-31
TEL:0778-51-5234 FAX:0778-51-8242
メールアドレス：tannan-nagomi@jadecom.or.jp

